

# 日本ペスタロッチャー・フレーベル学会

## 第35大会 プログラム

2017年9月9日(土)・10日(日)

茨城大学教育学部水戸キャンパス

### I 日程

9月9日(土)		9月10日(日)	
全国理事会	10:30~12:00	受付開始	9:00
受付開始	12:30	自由研究発表Ⅱ	9:30~12:00
自由研究発表Ⅰ	13:00~14:30	総会	12:10~13:10
シンポジウム	14:40~17:00	課題研究打ち合わせ	13:20~14:20
移動	17:00~18:00		
懇親会	18:00~20:00		

### II 会場・発表時間

全国理事会	大学 教育学部A棟224教室
理事控え室	大学 教育学部A棟A224(準備室)
自由研究発表	大学 教育学部D棟D201教室
会員控え室	大学 教育学部A棟223教室
総会・公開シンポジウム	大学 教育学部D棟D201教室
懇親会	ホテルレイクビュー水戸

【発表時間】自由研究発表の発表時間は1人25分、質疑応答は5分です。

### III 大会参加費・懇親会費

大会参加費：会員4,000円、学生会員2,000円、非会員2,000円(1日参加：1,000円)、

懇親会費：一律6,000円です。

\*大会当日、受付にてお支払い下さい。

### IV 後援(申請中)

茨城大学、茨城県教育委員会、水戸市教育委員会、全国幼児教育研究協会茨城支部、茨城県国公立幼稚園・こども園長会、茨城県幼稚園・認定こども園連合会、茨城県私立幼稚園・認定こども園連合会

### V 大会事務局

日本ペスタロッチャー・フレーベル学会 第35回大会実行委員会

〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1 茨城大学教育学部 小川研究室

E-Mail : tetsuya.ogawa.strato@vc.ibaraki.ac.jp

研究室☎ : 029-228-8311 : 当日携帯☎ : 090-7166-1103 FAX : 029-228-8329

委員長 : 小川 哲哉(茨城大学)

委員 : 安喰勇平(茨城キリスト教大学)

第1日目 9月9日(土)

<自由研究発表I> 大学 D棟 D201教室 (13:00~14:30)

司会 濱田 栄夫 (山陽学園大学)  
松村納央子 (山口学芸大学)

13:00~13:30

いじめとは何か  
—ペスタロッチーのもとで、ヘルバルトは子どもたちの姿をどう捉えたのか—  
駒木根剛 (近畿大学九州短期大学・町田福祉保育専門学校)

13:30~14:00

<真性な>フレーベル像の探求  
—日本フレーベル研究史の試み—  
小笠原道雄 (広島文化学園大学)

14:00~14:30

総括討議

<休憩・準備>

<公開シンポジウム> 大学 D棟 D201教室 (14:40~17:00)

<会場移動・休憩>

<懇親会> 会場: ホテルレイクビュー水戸  
時間: 18:00~20:00

【懇親会場へのアクセス】

住所: 〒310-0015 茨城県水戸市宮町1-6-1

電話 029-224-2727

交通アクセス: **学会会場からホテルの送迎バスがでます。**茨城交通のバスでは約25分かかります。

12番: 茨大前停留所(栄町・大工町経由: 茨城大学前郵便局の前)

12番: 茨大正門前停留所(栄町・大工町経由: 本数は少ない)

<ホテルレイクビュー水戸付近の地図>



第2日目 9月10日(日)

<自由研究発表Ⅱ> 大学 D棟 D201教室(9:30~12:00)

司 会 山口圭介(玉川大学)  
田岡由美子(龍谷大学短期大学部)

9:30~10:00

人物紹介: ミッデンドルフの生涯と教育活動

勝山吉章(福岡大学)

10:00~10:30

ユダヤ人コミュニティにおける幼稚園導入  
—エーレナ・ラファロヴィッチ・コンパレッティを通して—

オムリ慶子(関西学院大学)

10:30~11:00

草創期の幼稚園保姆養成  
—東京女子師範学校における「幼稚園保育法」の検討を中心に—

湯川嘉津美(上智大学)

11:00~11:30

保幼小連携と保育者・教員養成の課題  
—教育観・保育観に着目して—

吾田富士子(藤女子大学)

11:30~12:00

総括討議

<総 会>

12:10~13:10

<課題研究打ち合わせ>

13:20~14:20

## <公開シンポジウム>

題目：教員養成における教育思想の役割

大学 D棟 D201教室（14：40～17：00）

司 会 渡邊 満（広島文化学園大学）  
小川哲哉（茨城大学）

趣旨説明： 小川哲哉（茨城大学）

提案1：教員養成の質保証と教職コアカリキュラム 坂越正樹（広島大学）

提案2：教育思想と教員養成・育成教育 鈴木由美子（広島大学）

提案3：幼児教育における教育思想の役割 神永直美（茨城大学）

## <趣 旨>

近年子どもを取り巻く状況は大きく変わりつつある。今日、教師は様々な教育問題と対峙しながら子どもたちの成長と向き合うことが求められている。そのため、教師の専門的力量をいかに形成するかは、教員養成教育における喫緊の課題の一つとなっているといえる。さらに平成29年3月には幼稚園教育要領、小学校学習指導要領そして中学校学習指導要領が改訂され、「主体的・対話的で深い学び」の実現によって、まったく新たな時代に向けた子どもたちの「資質・能力」（コンピテンシー）の育成が学校教育の重要課題となるにいたっている。

そこで本大会シンポジウムでは、「教員養成教育における教育思想の役割」をテーマに取り上げたい。まず、近年の教員養成教育の動向を確認しておきたい。

教員養成教育の改革は、目下急ピッチで進められているが、注目されるのは2015年の12月21日に出された三つの中教審答申（中教審184, 185, 186号）である。これらの答申では、これまではどちらかといえば現代社会の大きな変容の中で学校の機能や教師の役割を高め、課題に対応しようとする傾向が強かった文教政策の方向性を、チーム学校と地域社会との連携・協働を強めていくことで学校教育を取り巻く諸課題を解決していこうとする方向への転換が目指されている。

さらに、これと並んで養成教育において重要なのが、教職大学院（2008年）の養成・育成教育である。教職大学院は、「子どもたちの学ぶ意欲の低下や社会意識・自立心の低下、社会性の不足、いじめや不登校などの深刻な状況など学校教育の抱える課題の複雑・多様化する中で、こうした変化や諸課題に対応しうる高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教員」の育成を図るため、高度な専門職業人養成に特化したものである。

上述した養成教育は、主に初等・中等教育で進められたものであるが、就学前教育についても大きな改革のうねりが見いだせる。その一つに「幼小接続」の問題があげられる。これは小1プロブレムの問題が顕在化して以来注目されており、幼児期の教育と小学校教育の関係を「連続性・一貫性」を持ってとらえる考え方である。従来、両者はそれぞれ分担されて扱われてきたが、相互の教育の意義を理解し、幼小の教育を「学びの基礎力の育成」という一つのつながりとして捉えることが重視されるようになってきた。教師には、スタートカリキュラム等、小学校教育への円滑な接続を図ることによって、一貫性を持った教育活動を行うことの重要性が指摘されている。

以上のように、教員の養成教育では、教師の資質・能力の向上がこれまで以上に求められていると同時に、「教えること」と「学ぶこと」についての基本的な捉え方の転換が求められている。ただ、こうした養成教育においては、長年にわたって積み上げられてきた教育に対する思索や、教育思想との関係性やその連関性の意味が、これまでの教育改革論議の中では、正面から検討されてきたとは言い難いように思われる。敢えて反省的な視野から見ていくと、これまではややもすると、面前で対応しなければならぬ諸課題に対してテクニカルな解決策に始終してはいなかっただろうか。教師の資質・能力の問題を皮相的な視野から見ていくのではなく、その本質の意味を問い返していく中で、資質・能力の質的向上が図られるのではないだろうか。